



～地域とともにある学校をめざして～

# 鯨コミ

R8年度 CS通信No.4 R8.6.25



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

## 教訓を未来へ活かすための学習～鯨中2年～



6月5日(金)、「ふるさと学習(防災教育)」において、中村川緊急治水対策プロジェクトに関する出前講座が行われました。この学習は、前号で紹介した中田学芸員による鯨ヶ沢町の災害史学習の続きです。(町HPにも掲載)

令和4年8月の豪雨の際、中村川は、氾濫危険水位(9.7m)を大きく上回る11.26mという過去最高の水位を記録し、護岸の決壊などにより大きな被害をもたらしました。今回の講座は、この教訓を未来へ活かすための学習です。

当日は、町の土木・建設に関わる皆様(雁金建設、ストヨネ、丸重组、町建設水道課)を講師にお招きし、氾濫を防ぐための対策や工事の様子について、現場の生の声を聞かせていただきました。

途中にクイズや動画を交えた楽しく分かりやすい説明に、生徒たちの興味や関心もぐっと引き出されていました。

## いよいよ現場見学 6月19日(金)



現在、中村川で行われている大規模な治水対策工事に従事している3社の全面協力を得て、今しか見られない現場を見せてもらう貴重な体験をしました。上富田～新田町の現場では、丸重组の方から災害の応急復旧や水が流れるスペースを確保する治水工事について、新田町の現場では、雁金建設の方から護岸工事について説明してい

ただきました。また、後家屋敷の現場では、ストヨネの方から説明を受けた後、実際にコンクリートブロックを積んでいく作業も見学することができました。

生徒たちは、護岸が丈夫に形成されていく様子を見て、土木に関わる人たちが私たちの生活を守ってくれているということを実感していました。

現場見学を終え、代表の生徒は、

「土木に関わる人たちの仕事と思いが伝わってきたので、この思いや考えを次の世代に伝えていきたいです。今日は、ありがとうございました。」と、しっかりとした言葉でお礼を述べていました。

## 米作りの大変さを学んだ体験 ～舞小5年～



6月11日(木)、北浮田町の長谷川さんの田んぼで田植え体験を行いました。なかなか受け入れてくれる農家がなくなっている中、児童の保護者のお宅で受け入れて下さり、事前の目印付けなど、子どもたちが、安全に、スムーズに体験できるように配慮してくださいました。

当日は、つがるにしきた農協のゲストティーチャー3名からご指導いただいたほか、舞戸小担当地域学校協働活動推進員の呼びかけで集まった4名の学校支援ボランティアから、苗の運搬や補充などの手厚いサポートをいただきました。

子どもたちからは、「泥だらけになったけれど楽しかったです!」「お米作りの苦勞を知り、これからは、ごはんを大切に食べようと思いました。」という声が聞かれました。

農協職員の方からも「初めてにしては上手にできました。家のお手伝いで慣れている子もいるようです。」とお褒めの言葉をいただきました。地域の皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。